

Convento da Graça em Lisboa

について

グラサ・エン・リスボア修道院 (Convento da Graça em Lisboa)

グラサ修道院は、1147年、リスボンの包囲攻撃の間、部隊の陣地として、ポルトガルの初代王、ドン・アフォンソ・エンリケス (Dom Afonso Henriques) が選んだアルモファラ (Almofala,) の名で知られる場所に建てられたものです。実際に、この場所はサン・ジヨルジエ城 (Castelo de São Jorge) 周辺一帯を見渡す上では最高の場所の1つで、現在はリスボン市民が美しい景色を楽しむ場所になっていますが、当時は戦略上非常に重要な拠点でした。

この教会と修道院の創設時期は、ポルトガルが建国して間もない頃ですが、16世紀に重要な発展を遂げました。その後、1755年に発生した大地震で、リスボンの大半の建物が倒壊し、この修道院も大部分が倒壊の被害に遭いましたが、その後再建工事が行われ、より地味なバロック様式の建物となりました。教会内部では、彫刻と金箔が施された礼拝堂の祭壇の木工装飾が印象的です。

鐘楼は、建築家のマヌエル・ダ・コスタ・ネグレイロス (Manuel da Costa Negreiros) によって1788年に建てられたものです。

問い合わせ先

Largo da Graça 1100-001 Lisboa

電話 : +351 21 886 17 69

パリアフリー案内